

九州大学 (文系) 前期日程 数学 解答速報

Ⅰ 以下の問いに答えよ。

- (1) 関数 $f(x) = 2x^3 + 3x^2 - 36x + 1$ が極値をとるときの x の値を求めよ。また、そのときの極値を求めよ。
- (2) 座標平面上の曲線 $C: y = |x^2 - 1|$ と、点 $(-1, 0)$ を通る傾き 1 の直線 l を考える。 C と l で囲まれる領域の面積を求めよ。

(2026 年度 九州大学 文系 前期日程)

(1) $f(x) = 2x^3 + 3x^2 - 36x + 1$ を x について微分すると、

$$\begin{aligned} f'(x) &= 6x^2 + 6x - 36 \\ &= 6(x^2 + x - 6) \\ &= 6(x+3)(x-2) \end{aligned}$$

よって、 $f'(x) = 0$ の解は、

$$x = -3, 2$$

ここで、

$$\begin{aligned} f(-3) &= 2 \cdot (-3)^3 + 3 \cdot (-3)^2 - 36 \cdot (-3) + 1 \\ &= -2 \cdot 3^3 + 3^3 + 4 \cdot 3^3 + 1 \\ &= (-2 + 1 + 4) \cdot 3^3 + 1 \\ &= 3^4 + 1 \\ &= 82 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} f(2) &= 2 \cdot 2^3 + 3 \cdot 2^2 - 36 \cdot 2 + 1 \\ &= 2^4 + 3 \cdot 2^2 - 9 \cdot 2^3 + 1 \\ &= 2^2(4 + 3 - 18) + 1 \\ &= 4 \cdot (-11) + 1 \\ &= -43 \end{aligned}$$

よって、 $f(x)$ の増減表は次の通り。

x	...	-3	...	2	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	82 極大	↘	-43 極小	↗

以上より、関数 $f(x)$ は、

$$x = -3 \text{ のとき極大値 } 82, x = 2 \text{ のとき極小値 } -43$$

をとる。

(2) 直線 l の方程式は、

$$l: y = x + 1$$

また、

$$C: y = \begin{cases} x^2 - 1 & (x \leq -1, 1 \leq x) \\ -x^2 + 1 & (-1 \leq x \leq 1) \end{cases}$$

$y = x^2 - 1$ と $y = x + 1$ を連立、 y 消去すると、

$$x^2 - 1 = x + 1$$

$$x^2 - x - 2 = 0$$

$$(x+1)(x-2) = 0$$

$$x = -1, 2$$

これらは、 $x \leq -1, 1 \leq x$ を満たす。

$y = -x^2 + 1$ と $y = x + 1$ を連立、 y 消去すると、

$$-x^2 + 1 = x + 1$$

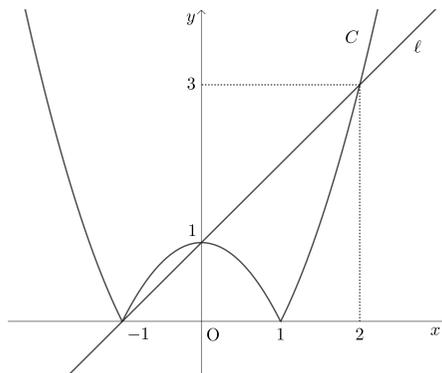
$$x^2 + x = 0$$

$$x(x+1) = 0$$

$$x = -1, 0$$

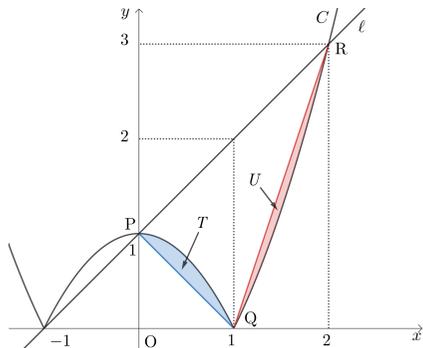
これらは、 $-1 \leq x \leq 1$ を満たす。

よって、 C と l の位置関係は図のようになる。



C と l で囲まれる面積のうち、 $-1 \leq x \leq 0$ の範囲にある図形の面積を S_1 、 $0 \leq x \leq 2$ の範囲にある図形の面積を S_2 とすると、

$$\begin{aligned}
 S_1 &= \int_{-1}^0 \{-x^2 + 1 - (x+1)\} dx \\
 &= -\int_{-1}^0 x(x+1) dx \\
 &= \frac{1}{6} \{0 - (-1)\}^3 \\
 &= \frac{1}{6}
 \end{aligned}$$



S_2 について、図の2つの部分の面積をそれぞれ T , U とすると、

$$\begin{aligned}
 T &= \int_0^1 \{-x^2 + 1 - (-x+1)\} dx \\
 &= -\int_0^1 x(x-1) dx \\
 &= \frac{1}{6} (1-0)^3 \\
 &= \frac{1}{6} \\
 U &= \int_1^2 \{3(x-1) - (x^2-1)\} dx \\
 &= -\int_1^2 (x-1)(x-2) dx \\
 &= \frac{1}{6} (2-1)^3 \\
 &= \frac{1}{6}
 \end{aligned}$$

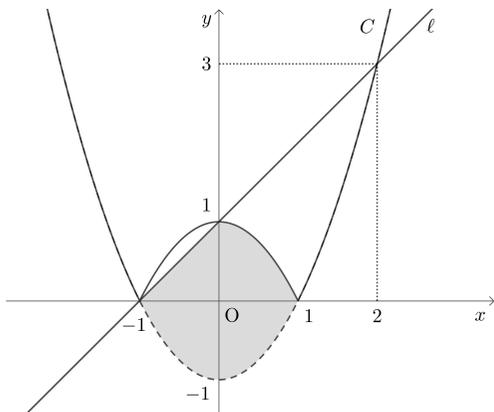
より、 $T = U$ である。よって、 S_2 の面積は図の三角形 PQR の面積に等しい。

$$\begin{aligned}
 S_2 &= \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 2 \\
 &= 2
 \end{aligned}$$

以上より、求める面積は、

$$\begin{aligned}
 S_1 + S_2 &= \frac{1}{6} + 2 \\
 &= \frac{13}{6}
 \end{aligned}$$

(2) (S_2 を求める部分の別解)



図の灰色部分の面積を S_3 とすると、

$$\begin{aligned}
 S_1 + S_3 &= 2 \int_{-1}^1 (-x^2 + 1) dx \\
 &= 2 \cdot \frac{1}{6} \{1 - (-1)\}^3 \\
 &= \frac{8}{3}
 \end{aligned}$$

また、

$$\begin{aligned}
 S_2 + S_3 &= \int_{-1}^2 \{x+1 - (x^2-1)\} dx \\
 &= \frac{1}{6} \{2 - (-1)\}^3 \\
 &= \frac{9}{2}
 \end{aligned}$$

以上より、求める面積は、

$$\begin{aligned}
 S_1 + S_2 &= S_1 + (S_2 + S_3) - (S_1 + S_3) + S_1 \\
 &= (S_2 + S_3) - (S_1 + S_3) + 2S_1 \\
 &= \frac{9}{2} - \frac{8}{3} + \frac{1}{3} \\
 &= \frac{27 - 16 + 2}{6} \\
 &= \frac{13}{6}
 \end{aligned}$$

【英進館 天神本館高等部 TZ クラス】

大学入試を知り尽くした教師陣が、君を合格へと導く。難関大の現役合格を目指すクラス！



https://www.eishinkan.net/high/hi_tz.php

【英進館 高卒本科コース】

毎年、在籍生の過半数が東大、京大、九大、その他旧帝大、国公立医学部医学科、早慶に進学。説明会・体験授業実施中！



https://www.eishinkan.net/high/hi_honka.php

2 座標空間内の4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 1, 1)$, $B(2, 2, 0)$, $C(4, 2, 2)$ と球面

$$S : (x - 1)^2 + (y + 1)^2 + (z + 1)^2 = 1$$

を考える。3点 A, B, C を通る平面を α とする。また、点 P は S 上にあり、以下の2つの条件をみたすとする。

- ・直線 OP は α と直交する。
- ・点 P の y 座標は -1 以下である。

以下の問いに答えよ。

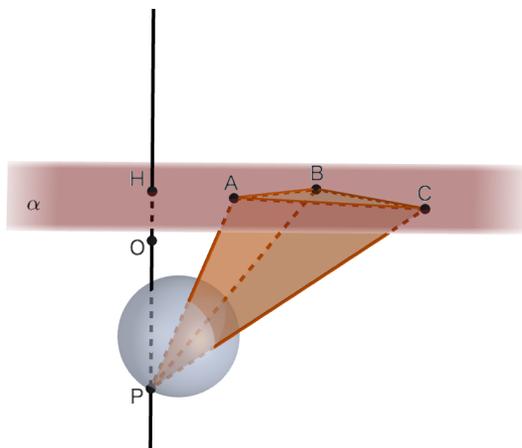
- (1) P の座標を求めよ。
- (2) P から α に下ろした垂線と α の交点を H とする。このとき

$$\vec{OH} = \vec{OA} + s\vec{AB} + t\vec{AC}$$

をみたす実数 s, t を求めよ。

- (3) 四面体 $ABCP$ の体積を求めよ。

(2026年度 九州大学 文系 前期日程)



- (1) O は球面 S の方程式を満たさないので、 O は S 上の点ではない。よって、 O と P は異なる2点である。

$P(a, b, c)$ (a, b, c は実数) とすると、 P は球面 S 上より、

$$(a - 1)^2 + (b + 1)^2 + (c + 1)^2 = 1 \cdots \textcircled{1}$$

また、

$$\vec{OP} = (a, b, c)$$

$$\vec{AB} = \vec{OB} - \vec{OA}$$

$$= (1, 1, -1)$$

$$\vec{AC} = \vec{OC} - \vec{OA}$$

$$= (3, 1, 1)$$

直線 OP は平面 α と垂直より、 $\vec{OP} \perp \vec{AB}$, $\vec{OP} \perp \vec{AC}$ が成り立つ。

よって、

$$\begin{cases} \vec{OP} \cdot \vec{AB} = 0 \\ \vec{OP} \cdot \vec{AC} = 0 \end{cases} \iff \begin{cases} a + b - c = 0 & \cdots \textcircled{2} \\ 3a + b + c = 0 & \cdots \textcircled{3} \end{cases}$$

$\textcircled{2} + \textcircled{3}$ より、

$$4a + 2b = 0$$

$$b = -2a \cdots \textcircled{4}$$

$\textcircled{4}$ を $\textcircled{2}$ に代入すると、

$$a + (-2a) - c = 0$$

$$c = -a \cdots \textcircled{5}$$

$\textcircled{4}$, $\textcircled{5}$ を $\textcircled{1}$ に代入すると、

$$(a - 1)^2 + (-2a + 1)^2 + (-a + 1)^2 = 1$$

$$6a^2 - 8a + 2 = 0$$

$$3a^2 - 4a + 1 = 0$$

$$(3a - 1)(a - 1) = 0$$

$$a = \frac{1}{3}, 1$$

ここで、 P の y 座標は -1 以下より、

$$-2a \leq -1$$

$$a \geq \frac{1}{2}$$

よって、

$$a = 1$$

以上より、

$$P(1, -2, -1)$$

(2) 直線 OP は α と直交し、かつ H は P から α に下ろした垂線の足より、

3点 P, O, H は同一直線上に存在する。よって、実数 k を用いて、

$$\begin{aligned}\vec{OH} &= k\vec{OP} \\ &= (k, -2k, -k) \dots \textcircled{6}\end{aligned}$$

と表せる。また、

$$\begin{aligned}\vec{OH} &= \vec{OA} + s\vec{AB} + t\vec{AC} \\ &= (1, 1, 1) + s(1, 1, -1) + t(3, 1, 1) \\ &= (s + 3t + 1, s + t + 1, -s + t + 1) \dots \textcircled{7}\end{aligned}$$

⑥, ⑦ の成分を比較すると、

$$\begin{cases} s + 3t + 1 = k & \dots \textcircled{8} \\ s + t + 1 = -2k & \dots \textcircled{9} \\ -s + t + 1 = -k & \dots \textcircled{10} \end{cases}$$

⑧ + ⑩ より、

$$4t + 2 = 0$$

$$t = -\frac{1}{2}$$

これを ⑧, ⑨ に代入すると、

$$\begin{cases} s - \frac{1}{2} = k \\ s + \frac{1}{2} = -2k \end{cases} \iff \begin{cases} k = -\frac{1}{3} \\ s = \frac{1}{6} \end{cases}$$

以上より、

$$s = \frac{1}{6}, t = -\frac{1}{2}$$

(3) $\vec{OH} = -\frac{1}{3}\vec{OP}$ より、P, O, H はこの順で一直線上であるから、

$$|\vec{OH}| = \frac{1}{3}|\vec{OP}|$$

よって、

$$|\vec{PH}| = |\vec{OP}| + |\vec{OH}| = \frac{4}{3}|\vec{OP}|$$

ここで、

$$\begin{aligned}|\vec{OP}| &= \sqrt{1^2 + (-2)^2 + (-1)^2} \\ &= \sqrt{6}\end{aligned}$$

であるから、

$$|\vec{PH}| = \frac{4\sqrt{6}}{3}$$

また、 $\triangle ABC$ の面積は、

$$\begin{aligned}\triangle ABC &= \frac{1}{2}\sqrt{|\vec{AB}|^2|\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \\ &= \frac{1}{2}\sqrt{3 \cdot 11 - 9} \\ &= \sqrt{6}\end{aligned}$$

以上より、求める体積を V とすると、

$$\begin{aligned}V &= \frac{1}{3}\triangle ABC \cdot PH \\ &= \frac{1}{3} \cdot \sqrt{6} \cdot \frac{4\sqrt{6}}{3} \\ &= \frac{8}{3}\end{aligned}$$

(3) (平面の方程式を利用する別解)

α は A を通り、 \vec{OP} を法線ベクトルの 1 つにもつから、 α の方程式は、

$$(x - 1) - 2(y - 1) - (z - 1) = 0$$

$$x - 2y - z + 2 = 0$$

点と平面の距離の公式より、

$$\begin{aligned}PH &= \frac{|1 - 2(-2) - (-1) + 2|}{\sqrt{1^2 + (-2)^2 + (-1)^2}} \\ &= \frac{8}{\sqrt{6}} \\ &= \frac{4\sqrt{6}}{3}\end{aligned}$$

(以下省略)

【英進館 天神本館高等部 TZ クラス】

大学入試を知り尽くした教師陣が、君を合格へと導く。難関大の現役合格を目指すクラス！



https://www.eishinkan.net/high/hi_tz.php

【英進館 高卒本科コース】

毎年、在籍生の過半数が東大、京大、九大、その他旧帝大、国公立医学部医学科、早慶に進学。説明会・体験授業実施中！



https://www.eishinkan.net/high/hi_honka.php

③ 以下の問いに答えよ。

(1) $\sqrt{2}$ が無理数であることを示せ。

(2) n を自然数とする。 $(\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n$ が整数となるための、 n がみたすべき必要十分条件を求めよ。

(2026 年度 九州大学 文系 前期日程)

(1) 背理法を用いて示す。

$\sqrt{2}$ が有理数と仮定すると、 $\sqrt{2}$ は互いに素な自然数 p, q を用いて、

$$\sqrt{2} = \frac{q}{p}$$

と表せる。両辺を 2 乗すると、

$$2 = \frac{q^2}{p^2}$$

$$2p^2 = q^2 \dots \textcircled{1}$$

$2p^2$ は偶数より、 q^2 は偶数である。

q^2 が偶数かつ q は自然数より、 q は正の偶数であるから、自然数 q' を用いて、

$$q = 2q'$$

と表せる。これを $\textcircled{1}$ に代入すると、

$$2p^2 = (2q')^2$$

$$p^2 = 2q'^2$$

$2q'^2$ は偶数より、 p^2 は偶数である。

p^2 が偶数かつ p は自然数より、 p は正の偶数である。

これは p と q が互いに素であることと矛盾する。

よって、 $\sqrt{2}$ は無理数である。

(1) (別解)

背理法を用いて示す。

$\sqrt{2}$ が有理数と仮定すると、 $\sqrt{2}$ は自然数 p, q を用いて、

$$\sqrt{2} = \frac{q}{p}$$

と表せる。両辺 2 乗して整理すると、

$$2 = \frac{q^2}{p^2}$$

$$2p^2 = q^2$$

素因数 2 の個数に注目すると、左辺は奇数個、右辺は偶数個の素因数 2 をもつため矛盾する。

よって、 $\sqrt{2}$ は無理数である。

(2) n の偶奇で場合分けする。

(i) n が偶数のとき、非負整数 m を用いて、 $n = 2m$ と表せる。このとき、二項定理より、

$$(\sqrt{2} + 1)^n = (\sqrt{2} + 1)^{2m}$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k \cdot 1^{2m-k}$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k$$

$$(\sqrt{2} - 1)^n = (\sqrt{2} - 1)^{2m}$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^{2m-k}$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^{2m} \cdot (-1)^{-k}$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^k$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (-\sqrt{2})^k$$

よって、

$$(\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (\sqrt{2})^k + \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k (-\sqrt{2})^k$$

$$= \sum_{k=0}^{2m} {}_{2m}C_k \{(\sqrt{2})^k + (-\sqrt{2})^k\}$$

$$= {}_{2m}C_0 \{(\sqrt{2})^0 + (-\sqrt{2})^0\}$$

$$+ {}_{2m}C_1 \{(\sqrt{2})^1 + (-\sqrt{2})^1\}$$

$+\dots$

$$+ {}_{2m}C_{2m-1} \{(\sqrt{2})^{2m-1} + (-\sqrt{2})^{2m-1}\}$$

$$+ {}_{2m}C_{2m} \{(\sqrt{2})^{2m} + (-\sqrt{2})^{2m}\}$$

$$= 2\{{}_{2m}C_0 (\sqrt{2})^0 + {}_{2m}C_2 (\sqrt{2})^2 + \dots + {}_{2m}C_{2m} (\sqrt{2})^{2m}\}$$

$$= 2 \sum_{k=0}^m {}_{2m}C_{2k} (\sqrt{2})^{2k}$$

$$= 2 \sum_{k=0}^m {}_{2m}C_{2k} 2^k$$

$$= \sum_{k=0}^m {}_{2m}C_{2k} 2^{k+1}$$

より、これは整数である。

(ii) n が奇数のとき、非負整数 m を用いて、 $n = 2m + 1$ と表せる。このとき、二項定理より、

$$\begin{aligned} (\sqrt{2} + 1)^n &= (\sqrt{2} + 1)^{2m+1} \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k \cdot 1^{2m+1-k} \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k \\ (\sqrt{2} - 1)^n &= (\sqrt{2} - 1)^{2m+1} \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^{2m+1-k} \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^{2m} \cdot (-1)^{-k+1} \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k \cdot (-1)^{k-1} \\ &= - \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (-\sqrt{2})^k \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} &(\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (\sqrt{2})^k - \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k (-\sqrt{2})^k \\ &= \sum_{k=0}^{2m+1} {}^{2m+1}C_k \{(\sqrt{2})^k - (-\sqrt{2})^k\} \\ &= {}^{2m+1}C_0 \{(\sqrt{2})^0 - (-\sqrt{2})^0\} \\ &\quad + {}^{2m+1}C_1 \{(\sqrt{2})^1 - (-\sqrt{2})^1\} \\ &\quad + \dots \\ &\quad + {}^{2m+1}C_{2m} \{(\sqrt{2})^{2m} - (-\sqrt{2})^{2m}\} \\ &\quad + {}^{2m+1}C_{2m+1} \{(\sqrt{2})^{2m+1} - (-\sqrt{2})^{2m+1}\} \\ &= 2\{ {}^{2m+1}C_1 (\sqrt{2})^1 + {}^{2m+1}C_3 (\sqrt{2})^3 \\ &\quad + \dots + {}^{2m+1}C_{2m+1} (\sqrt{2})^{2m+1} \} \\ &= 2 \sum_{k=0}^m {}^{2m+1}C_{2k+1} (\sqrt{2})^{2k+1} \\ &= 2 \sum_{k=0}^m {}^{2m+1}C_{2k+1} 2^k \sqrt{2} \\ &= \sqrt{2} \sum_{k=0}^m {}^{2m+1}C_{2k+1} 2^{k+1} \end{aligned}$$

$\sum_{k=0}^m {}^{2m+1}C_{2k+1} 2^{k+1}$ が自然数であることと (I) より、これは無理数である。

(i), (ii) より、求める必要十分条件は、 n が偶数であること

である。

(2) (別解)

すべての自然数 n について、

$$\begin{cases} (1 + \sqrt{2})^n = x_n + y_n \sqrt{2} \\ (1 - \sqrt{2})^n = x_n - y_n \sqrt{2} \end{cases} \dots \textcircled{2}$$

を満たす自然数 x_n, y_n が存在することを数学的帰納法を用いて示す。

(i) $n = 1$ のとき、

$$\begin{cases} (1 + \sqrt{2})^1 = 1 + 1 \cdot \sqrt{2} \\ (1 - \sqrt{2})^1 = 1 - 1 \cdot \sqrt{2} \end{cases}$$

より、 $x_1 = y_1 = 1$ であり、条件を満たす。

©英進館株式会社 無許可での複製・転載・譲渡・転売などの行為は固く禁じます。

(ii) $n = k$ (k は自然数) のとき、

$$\begin{cases} (1 + \sqrt{2})^k = x_k + y_k \sqrt{2} \\ (1 - \sqrt{2})^k = x_k - y_k \sqrt{2} \end{cases}$$

を満たす自然数 x_k, y_k が存在すると仮定する。 $n = k + 1$ のとき、

$$\begin{aligned} (1 + \sqrt{2})^{k+1} &= (1 + \sqrt{2})^k (1 + \sqrt{2}) \\ &= (x_k + y_k \sqrt{2})(1 + \sqrt{2}) \\ &= (x_k + 2y_k) + (x_k + y_k) \sqrt{2} \\ (1 - \sqrt{2})^{k+1} &= (1 - \sqrt{2})^k (1 - \sqrt{2}) \\ &= (x_k - y_k \sqrt{2})(1 - \sqrt{2}) \\ &= (x_k + 2y_k) - (x_k + y_k) \sqrt{2} \end{aligned}$$

より、

$$\begin{cases} x_{k+1} = x_k + 2y_k \\ y_{k+1} = x_k + y_k \end{cases}$$

とすると、これらは自然数であり、

$$\begin{cases} (1 + \sqrt{2})^{k+1} = x_{k+1} + y_{k+1} \sqrt{2} \\ (1 - \sqrt{2})^{k+1} = x_{k+1} - y_{k+1} \sqrt{2} \end{cases}$$

となり、 $n = k + 1$ のときも成り立つ。

以上より、すべての自然数 n について (2) を満たす自然数 x_n, y_n が存在することが示される。以下、 n の偶奇で場合分けする。

・ n が偶数のとき、

$$\begin{aligned} (\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n &= (\sqrt{2} + 1)^n + (1 - \sqrt{2})^n \\ &= (x_n + y_n \sqrt{2}) + (x_n - y_n \sqrt{2}) \\ &= 2x_n \end{aligned}$$

$2x_n$ は自然数より、 $(\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n$ は整数である。

・ n が奇数のとき、

$$\begin{aligned} (\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n &= (\sqrt{2} + 1)^n - (1 - \sqrt{2})^n \\ &= (x_n + y_n \sqrt{2}) - (x_n - y_n \sqrt{2}) \\ &= 2y_n \sqrt{2} \end{aligned}$$

$2y_n$ は自然数かつ (I) より、 $(\sqrt{2} + 1)^n + (\sqrt{2} - 1)^n$ は無理数である。

以上より、求める必要十分条件は、

n が偶数であること

である。

【英進館 天神本館高等部 TZ クラス】

大学入試を知り尽くした教師陣が、君を合格へと導く。難関大の現役合格を目指すクラス！



https://www.eishinkan.net/high/hi_tz.php

【英進館 高卒本科コース】

毎年、在籍生の過半数が東大、京大、九大、その他旧帝大、国公立医学部医学科、早慶に進学。説明会・体験授業実施中！



https://www.eishinkan.net/high/hi_honka.php

4 $0 < r < 1$ とする。表が出る確率が r 、裏が出る確率が $1 - r$ の硬貨を投げ、表が出た場合は白玉を 2 つ横並びに置き、裏が出た場合は黒玉を 1 つ置く。この要領で硬貨を繰り返し投げ、左から右に 1 列になるように白玉と黒玉を順に並べていく。例えば、3 回硬貨を投げ、結果が順に「裏、表、表」であれば、左から順に「黒、白、白、白、白」と 5 つの玉が並ぶ。 n を自然数とする。 $n + 2$ 回硬貨を投げたとき、左から $n, n + 1, n + 2$ 番目の玉がすべて黒である確率を p_n とする。以下の問いに答えよ。

- (1) p_1, p_2 を求めよ。
- (2) $n \geq 2$ とする。 $n + 2$ 回硬貨を投げたとき、左から 1, $n, n + 1, n + 2$ 番目の玉がすべて黒である確率を p_{n-1} を用いて表せ。
- (3) $n \geq 3$ のとき、 p_n を p_{n-2}, p_{n-1} を用いて表せ。
- (4) p_n を求めよ。

(2026 年度 九州大学 文系 前期日程)

(1) 3 回硬貨を投げたとき、左から 1 番目、2 番目、3 番目が黒となるのは、結果が順に「裏、裏、裏」となるときであるから、

$$p_1 = (1 - r)^3$$

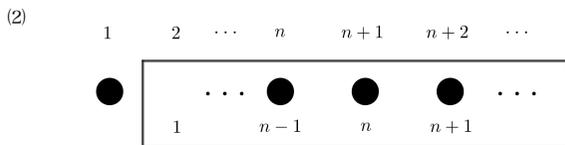
4 回硬貨を投げたとき、左から 2 番目、3 番目、4 番目が黒となることを考える。

1 回目に表が出た場合、左から 2 番目は白となるため不適。よって、1 回目は裏である。

2 番目、3 番目、4 番目がすべて黒となるから、残り 3 回も裏である。

以上より、結果が順に「裏、裏、裏、裏」のときであるから、

$$p_2 = (1 - r)^4$$



左から 1 番目は黒より、1 回目は裏である。

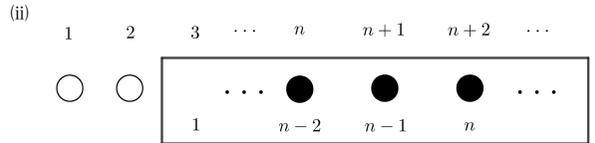
2 回目から n 回目まで硬貨を投げたときの結果は図の四角内の部分である。四角内において左から $n - 1, n, n + 1$ 番目が黒となる確率は p_{n-1} であるから、求める確率は、

$$(1 - r)p_{n-1}$$

(3) 1 回目に出た面で場合分けする。

(i) 1 回目が裏、かつ左から $n, n + 1, n + 2$ 番目がすべて黒である確率は、(2) より、

$$(1 - r)p_{n-1}$$



1 回目が表、かつ左から $n, n + 1, n + 2$ 番目がすべて黒である確率を考える。

2 回目から n 回目まで硬貨を投げたときの結果は図の四角内の部分である。四角内において左から $n - 2, n - 1, n$ 番目が黒となる確率は p_{n-2} であるから、この確率は、

$$rp_{n-2}$$

以上より、 $n \geq 3$ のとき、

$$p_n = (1 - r)p_{n-1} + rp_{n-2} \cdots \textcircled{1}$$

(4) ① の n を $n+2$ に置き換えると、 $n \geq 1$ のとき、

$$p_{n+2} = (1-r)p_{n+1} + rp_n \cdots \textcircled{2}$$

② より、

$$\begin{cases} p_{n+2} - p_{n+1} = -r(p_{n+1} - p_n) & \cdots \textcircled{3} \\ p_{n+2} + rp_{n+1} = p_{n+1} + rp_n & \cdots \textcircled{4} \end{cases}$$

$$p_1 = (1-r)^3, p_2 = (1-r)^4 \text{ と } \textcircled{3} \text{ より、}$$

$$\begin{aligned} p_{n+1} - p_n &= (p_2 - p_1)(-r)^{n-1} \\ &= \{(1-r)^4 - (1-r)^3\}(-r)^{n-1} \\ &= (1-r)^3(-r)^n \cdots \textcircled{5} \end{aligned}$$

$$p_1 = (1-r)^3, p_2 = (1-r)^4 \text{ と } \textcircled{4} \text{ より、}$$

$$\begin{aligned} p_{n+1} + rp_n &= p_2 + rp_1 \\ &= (1-r)^4 + r(1-r)^3 \\ &= (1-r)^3 \cdots \textcircled{6} \end{aligned}$$

⑤ - ⑥ より、

$$-(1+r)p_n = (1-r)^3(-r)^n - (1-r)^3$$

$-(1+r) \neq 0$ より、

$$p_n = \frac{(1-r)^3\{1 - (-r)^n\}}{1+r}$$

【英進館 天神本館高等部 TZ クラス】

大学入試を知り尽くした教師陣が、君を合格へと導く。難関大の現役合格を目指すクラス！



https://www.eishinkan.net/high/hi_tz.php

【英進館 高卒本科コース】

毎年、在籍生の過半数が東大、京大、九大、その他旧帝大、国公立医学部医学科、早慶に進学。説明会・体験授業実施中！



https://www.eishinkan.net/high/hi_honka.php